

RJ-14「盛岡市動物公園再生活性化事業にかかる外部資源の有効活用について」

課題提案者：盛岡市・盛岡市動物公園公社

研究代表者：総合政策学部 倉原宗孝

研究チーム員：辻本恒徳、川村弘樹（盛岡市動物公園公社）、長澤幸多、藤根卓夫（盛岡市公園みどり課）

<要旨>

動物園等の施設運営においては全国的に共通して、財政負担、来園者数低迷など厳しい状況があり、盛岡市動物公園においても同様な状況にある。本研究では、教育的・学術的に重要施設である当動物公園の今後の運営や整備・活用方策を探るために各種調査と共に市民等を巻き込んだワークショップ等を実践した。まず全国の動物園の運営状況を各種データから整理・分析した。その上で典型的な動物園等の視察、考察を行った。また大学生や市民による課題や改善提案などを行った。さらに広く市民に呼びかけ3回のワークショップを行った。これらを通じて現在の動物公園の課題を再確認すると共に、施設整備のあり方、運営等ソフト面の方向性、また協働運営に向けた各主体の機運醸成等が生まれた。

1 研究の概要（背景・目的等）

盛岡市動物公園は平成元年の開園から約四半世紀経ち、開園当初に掲げた目標は達成できたが、来園者数も減少し、市の負担額が増加している。こうした現状は全国的に共通する。一般的に動物園は、種の保存や環境教育、さらには調査研究やレクリエーションに関する事業を行うものと思われているが、その達成のためには外部の各機関と連携し、さらに運営において最も重要な地域（＝市民）との連携が必要となる。

その上で本研究では、①全国動物園に関するデータの整理・分析、②典型的な動物園等の視察、また③市民や大学生等による課題・改善提案の創造とそれをもとにした議論、④市民に呼びかけたワークショップを通じて、盛岡市動物公園の今後の整備・活用方策を探った。

2 研究の内容（方法・経過等）

調査・活動は上記に記した①～④である。以下、それぞれ内容と考察を記す。

(1)全国動物園等に関するデータの整理・分析

日本の動物園には法制上の定義はなく、それゆえ全国の動物園の存在、情報を全て把握することは難しい。ここではわが国で最も有力な日本動物園水族館協会に加盟する87園（公立67園、私立20園）を対象にした。その上で、各動物園の入園者数の推移、入園料、開園期間・時間、夜の動物園などイベントの状況、等について、各資料、ネット情報などをもとに整理した。

紙幅の都合でここでは各データの詳細は示せないが、例えば入園者数においては、リニューアルによる効果が見られる動物園と共に、話題になった旭山動物園をはじめ丸山動物園、おびひろ動物園など北海道の動物園、福岡市動物園など九州の動物園、また小規模ながら五月山動物園（大阪）などに入園者数が伸びている興味深い動物園が見られた。

入園料においては、中学生以下無料（30園）、全年齢無料（15園）があり、また年間パスポートを採用している動物園も33園あった。盛岡市動物公園の料金はパスポ-

ー制度なども含めて良心的な価格だと言えそうだ。

また夜の動物園などを行っている園も多い。さらに冬期開園を行っている動物園も多く、特に北海道・東北地域においては盛岡市動物公園のみが実施していないようである。

表1 地域ごとの入園者数の推移（単位：人）

年度	9	10	11	12	13	14	15	16
北海道	1,281,232	1,313,186	1,262,105	1,456,699	1,554,980	1,631,521	1,718,771	2,323,115
東北	873,182	800,991	929,408	828,833	880,423	942,713	924,814	863,783
関東	13,486,871	10,701,015	13,554,957	12,132,359	13,002,025	11,782,347	12,056,728	11,584,570
北陸	940,244	868,267	1,110,898	1,199,689	1,368,963	999,905	1,033,607	962,023
中部	6,036,236	7,700,217	8,194,023	8,120,665	8,628,610	7,924,814	7,007,607	6,577,155
近畿	5,977,975	6,012,370	5,770,981	6,158,358	6,244,848	5,791,573	5,002,910	5,938,412
四国	1,174,166	1,342,996	1,192,797	1,172,092	1,133,172	993,010	1,057,785	1,017,188
中国	1,755,937	1,618,970	1,587,455	1,534,655	1,745,742	1,560,182	1,683,252	1,530,037
九州	5,890,395	5,315,080	5,303,463	5,070,522	4,234,597	4,990,504	4,713,531	4,633,057
計	40,416,238	35,673,402	38,706,187	37,673,872	38,493,360	36,616,569	36,069,205	35,430,340

年度	17	18	19	20	21	22	23	24
北海道	2,830,089	3,913,888	3,950,690	3,745,220	3,742,685	3,200,428	2,797,821	2,667,376
東北	920,151	912,848	892,446	891,397	1,017,330	862,286	888,965	881,517
関東	12,526,582	12,910,259	12,866,868	12,557,873	13,563,339	12,116,292	14,401,232	13,754,541
北陸	954,622	877,374	913,432	873,756	919,979	817,310	838,034	864,864
中部	6,644,881	7,691,372	8,021,659	7,962,175	7,731,261	7,427,408	7,717,613	7,283,483
近畿	6,145,261	6,957,013	7,173,726	7,464,181	7,380,089	6,257,057	6,246,593	6,371,582
四国	1,063,536	1,081,873	1,066,487	1,113,847	1,207,404	1,074,906	1,040,291	1,066,585
中国	1,687,112	1,323,624	1,397,352	1,538,788	1,897,585	1,732,793	1,872,124	1,856,794
九州	4,838,572	4,626,261	4,952,589	5,101,047	5,525,175	4,276,805	4,591,935	4,826,165
計	37,620,108	40,294,522	41,237,249	41,249,284	43,084,827	37,773,385	40,396,628	38,572,907

盛岡市動物公園において、経済面からも今後の整備計画は定まっていない面があるが、リニューアル等による効果は期待できそうだ。同時に、北国において冬期の運営方策、また夜など従来の開園時間以外の活用なども課題と言える。

(2)典型的な動物園の現地観察

上記の分析結果及び各情報をもとに動物園の実態を知るために典型的な園の現地調査を行った。主なものは、旭山動物園、丸山動物園、五月山動物園、福岡市動物園、また東北圏の八木山動物園、大森山動物園、さらに幾つかの水族館や昆虫館など、参考となるとされる類似施設である。

動物園の展示方法には、大きくは分類学展示、地理学



的展示、生態学展示、行動展示があるが、人気があると思われる動物園は主に行動展示の要素を取り入れているようだ。ただし教育・研究の面からはそれが相応

写真：丸山動物園に至るまでの通路誘導の案内情報と共に動物たちをあしらったパネル等で動物園に向かうアクセスも楽しく分かりやすいようだ。

しいとは言い切れない。その中で各動物園がそれぞれのポリシーのもとに展示・運営しているようだ。また詳述はできないが、例えば動物園内部のみではなく、園に至るまでのアクセス、情報が整備されているところが多い。独自のロゴマークを活用した商品も各動物園に見られた。

(3) 学生や市民による動物公園の課題・活用提案

若者（大学生）による動物公園の実態把握と改善提案、また市民による動物公園の意義・提案検討の作業も行った。

前者については総合政策学部環境政策講座の実習を利用して5回のスケジュールで行った。現地及びアクセスの調査、動物公園の観察、情報収集と課題・改善提案、発表と関係者との議論である。以下、そこでの知見を幾つか記しておく。

郊外に立地する動物公園であるが、そこに至るまでのアクセスの不便、また情報の少なさの指摘が多い。動物の展示方法や開園時間、園内のルートや設備などの指摘も多くされた。またダメージジーンズ（像にジーンズを踏ませてあえて古びた物にする）、ユニークな料理（鳥展示の前で世界の焼き鳥、等）、動物たちをあしらった商品開発（ムササビの肩掛け、等）、など動物公園でもそのまま活かしたい提案がされた。

各種問題指摘や整備・活用の方向性について再確認されると共に、各提案については取り入れられた物もあるようだ。



写真：大学生からの課題・提案をもとに関係者で議論従来も想定されていた問題・課題が再確認されたことは整備関係者にとって今後の自身にもなったようだ。

市民による意義・提案検討においては、専門家からは否定されるかも知れないがユニークな提案や意義が示された。「オンリーワンのZOO」「六感刺激動物公園」等のテーマで、岩手・盛岡らしい動物をモチーフにしたバスや園内回遊する人力カート、また生きものの生態を知ると同時に都市化で退化した五感、六感を刺激する必要性とその体験・学習の場としての意義などである。学生・市民のいずれもそのまま活かしたり、今後の整備を触発するものであった。

(4) 「こんな動物公園になったらいいな」のワークショップ



写真：市民による動物公園の意義・提案検討盛岡市の協働まちづくりを考える学習会の題材として市民による検討が行われた。示唆深く、またユニークな提案が多く出されたが、一方で大人達は動物公園にあまり行っていない現状も知らされた。

市民参加により動物公園のこれからを考えるワークショップを計3回にわたって企画・実施した。

表2 各ワークショップのテーマ・作業概要（いずれも約30名の参加）

<p>□第1回 (2015.1.23) 学習会・動物公園の楽しみ方・魅力とは／あなたはなぜ動物公園に来るのか／みんなは動物公園に何を求めているのか／どんな動物公園になったらいい／活動を広げていくためには</p> <p>□第2回 (2015.2.25) PRしたい内容は／PRの方法は、誰がどのようにして／出前動物園／どこでどんなことを</p> <p>□第3回 (2015.3.18) 動物公園はなぜ必要か／ロールプレイ（経費で悩むAさん、興味のないBさんを説得する）／出前動物園を具体的に考える</p>
--

第一回では、動物公園のレクチャーの後、動物や動物園への興味・魅力が話し合われた。ただし、参加者の多くが動物好きと思われることから、むしろ参加していない一般市民が求める動物園像についてその後議論された。さらにその魅力を広げる活動方法等が話し合われた。

第二回では、従来から指摘されていた情報発信について話し合った。各イベントや年間パスポートなど評価される現在のサービス内容などが再確認されると共に、企業とのコラボレーションによるPR方法なども提案された。また郊外に位置する動物園の地理的ハンディを克服する上でも、動物園自身が街に出ていくことが話題となり「出前動物園」の内容について議論された。これらは市民サービスとして又PR方法としても有効と思われ、より具体化して行く方向になる。

第三回では、これまでの二回の議論を客観的に見直しながら、より現実的に検討していく場が企画された。そのため、動物公園の存在に（あえて）否定的な立場と、肯定的な立場に参加者が別れてロールプレイを行った。演劇風に表現されたそれぞれの主張を踏まえながらあらためて動物公園の意義・魅力また課題を掘り下げ共有された。後半は前回あった出前動物園の具体案を検討した。

3 成果と今後

短期間だったが濃密な調査・活動が展開できたと考える。具体の整備・活用案と共に今後の計画・運営に協働して携わっていく市民が育ってきたこと、出前動物園など街に出ていくというこれからの動物公園のス



タンスも創造できたことは大きい。その内容の幾つかは既に取り組み始められているが、次年度以降のさらなる具体的な活動・評価が期待される。

写真：市民参加による動物公園を考えるワークショップいずれの回も参加者からの自由で積極的な発言が交わされ楽しく創造的な場となった。第三回の寸劇仕立ての各立場からの主張（写真右）は、参加者の思いやアイデアと共に今後の活動に生きる人材・能力も発掘されたと思う。